

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表(理学療法学科Ⅰ)
2026.4.1現在

科目名	担当者	単位数	単位時間	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
人間発達学	平間 亮	2	30	必修	講義	3	幼児期の骨折、白血病などの難病を病院や訪問リハビリで経験しました。成長過程にある骨の特徴や正常な発達過程の知識が重要です。またリハビリの対象者が幼い場合は保護者への説明や同意が必須となります。ご家族の育児状況や生活へ影響への理解も信頼関係を深める上では非常に重要となります。覚える量も膨大なため、記憶に定着しやすいよう覚え方のポイント、語呂合わせなども行ってまいります。
理学療法概論(研究法)Ⅰ	村田 薫克 水野 靖廣 後藤 洋平 笠原 靖子 平間 亮 平澤 勉	1	30	必修	演習	3	村田:理学療法分野でも自分が研究したことを世の中に出していくことは非常に大切な経験と財産になります。簡略化されている部分もありますが、伝える方法を少しでも学べるようにしていきますので頑張って授業を進めていきましょう。 水野:研究をすることによって理学療法の難しさ、奥深さ、何より面白さを体験することが出来ます。基本的にはグループで協力し合い実施していきますので、身勝手な行動は控え全員で助け合って一つの成果物を仕上げましょう。 後藤:臨床をでると、疑問も多く、文献を閲覧する機会は多くあります。自分自身で疑問に対し知識を深めていくことは理学療法士として必要な能力であり、論理だてて学会発表や文献に起こすことで後世に残るものとなります。一緒にしっかり学びましょう。 笠原:研究は、身近ななぜ?どうして?どうなるのか?など興味や疑問に思った事をグループで考えます。結果のみでなく、1つの事を成し得る達成感・充実感の大切さを学ぶように授業を行います。 平間:2年時に上級生の研究を見学しておりますのでイメージがしやすいと思います。当時に上級生も幾多の困難を乗り越えていました。担当になる教員と相談し、グループ間でも協力して経験を積み重ねていきましょう。 平澤:理学療法士は裏付けのある診療を行います。時には先行文献がないこともあります。その際に効果を検証し、情報を発信するため研究や発表を行います。研究や発表は大きなイメージがありますが、できるだけ楽しんで行えるように進めていきたいと思います。
理学療法管理学	笠原 靖子	2	30	必修	講義	3	地域に密着したクリニックで勤めてまいりました。理学療法士としての業務はもろもろの事ですが、クリニックの規模では多種多様な業務に携わる機会も多々ありました。地域リハビリテーションの現場では、契約における説明に始まり利用にあたっての規約等を伝えて初めて通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションの開始となりますので理解を深めていきましょう。
検査・測定法Ⅴ	村田 薫克	1	30	必修	演習	3	私は急性期病院で10年間働き、その後も整形外科クリニックで臨床を10年以上経験しています。しかし、いまだに何が治療として正解なのかは難しく、多くの答えがあるのも理学療法だと思っています。悩むにも知識がないと十分考えることはできません。いまだに日々勉強だと思っています。将来自分の治療に自信が持てる理学療法士になれるよう、今から臨床推論の思考過程を鍛えていきましょう。
疾患別運動療法演習 中枢Ⅰ	片寄 純一	1	30	必修	演習	3	主に回復期リハビリテーション病棟で脳卒中患者の理学療法を実施してきました。その他、外来リハビリ、急性期リハビリ(ICU含む)、通所リハビリ、老健、教員などの経験があります。現在は上記回復期での勤務のため、基礎的理論の復習を行いながら、実際の理学療法の知見を交え授業を行っていきます。
疾患別運動療法演習 中枢Ⅳ	鈴木 研	1	30	必修	演習	3	これまでの症例経験の内容だけでなく、実習生への指導、若手セラピストへの指導経験も活かして行きたいと考えています。 興味をひきつけるために臨床実習、卒後の不安を煽るのではなく、前向きに臨めるような情報の提供もしたいです。
疾患別運動療法演習 整形Ⅲ	水野 靖廣	1	30	必修	演習	3	理学療法士として整形外科で実務経験がある教員が、脊髄損傷、切断ともに基礎科目である解剖学、生理学から講義します。基礎を理解してから自律神経過反射や異所性骨化、脊髄ショック、拘縮などの合併症、ブラウンセーカル症候群や脊髄空洞症などの評価、病態を解説していきます。 また、講義内にて確認テストを実施します。この確認テストは成績評価の一部となりますので普段からの授業を大切にしてください。
疾患別運動療法演習 内部Ⅰ	平澤 勉	1	30	必修	演習	3	日本は超高齢社会であり、それにより肺炎で亡くなる方が増えました。また、2019年には新型コロナウイルスが大流行するなど、理学療法士が急性期から人工呼吸器を装着した患者のリハビリに関わることが多くなってきています。 また、理学療法士が気道内分泌物を吸引する機会が増えています。吸引ができないと患者は窒息で生命の維持が困難になります。 国家試験のためだけでなく、臨床に出て困らないような授業を展開していきたいと思っています。
疾患別運動療法演習 小児	原田 隆之	1	30	必修	演習	3	一般社団法人Ro Smileでは、2012年に制度化された放課後等デイサービス(障がい児が学校後や休日に通う施設)において、全国でも珍しいリハビリに特化した運営を行なっています。講義の中では、利用児・ご家族の協力を得て、写真・動画を駆使しながら、実際のリハビリ現場をイメージしやすいように行なっていきます。
義肢装具学	廣島 淳	1	30	必修	講義	3	医療機関等で義肢装具士として現在活躍中である非常勤講師が体験などを交え、義肢装具の概要を講義し、演習では実際に装具製作を体験し、必要な知識を学ぶ科目である。
日常生活動作学・生活環境論	水野 靖廣	2	30	必修	講義	3	理学療法士として整形外科クリニックで高齢者リハビリテーションやスポーツリハビリテーションの実務経験がある教員が、ADLの評価をはじめ様々な疾患に対応した指導を理解しアプローチ方法、リスク管理を指導する科目である。
合計			14 単位			330 単位時間	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表(作業療法学科)
2028.4.1現在

科目名	担当者	単位数	単位時間	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
作業療法概論(研究法)	石田 敦子	2	30	必修	演習	3	臨床の傍ら回復期病院の実態調査や臨床研究を行い、大学院では脳機能計測や動作解析装置を使用したIADL動作解析、工学部との合同研究、認知症者のメタ記憶など多様な研究を行いました。国立長寿医療研究センターの研究室において認知症者のタブレット操作能力についても論文発表を行っています。国内外での論文発表、学会発表経験もあります。学生の持ち寄るアイデアは非常にユニークで驚かされます。合同研究を行うつもりで授業をさせていただきます。
保健医療福祉連携論	杉野 潤也 村谷 澄哉	2	30	必修	講義	3	介護老人保健施設、訪問リハビリテーションを中心とする地域リハビリテーション、一般病院等の臨床現場の経験を活かして多職種協働の必要性を伝えていく。(杉野) 精神科病院において、病棟作業療法を担当する。その経験をいかし、職種協働の必要性を伝えていく。(村谷)
作業療法管理学	村谷 澄哉	2	30	必修	講義	3	精神科病院で約5年間勤務。主に依存症を担当。2年目より主任として部署の管理、運営を行ってきた。その経験を活かした授業を行っていく。
医学情報処理学	伊藤 大貴	1	30	必修	講義	3	約8年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、画像診断を生かした高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。
作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅱ)	石田 敦子 伊藤 大貴	2	60	必修	演習	3	身体領域、地域領域の経験があり、在宅での自立生活に向けて福祉用具の選定や評価、内部疾患合併患者の治療を実施した。疾患特性を踏まえた座学・実技授業を通して、具体的な対象者をイメージしながら支援する経験を積んでもらいたい。(石田) 急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。(伊藤) 対象者・家族のリアルなニーズとデマンドに対して、どのような治療を行ってきたのかエピソードトークも交えてお伝えします。
作業治療学Ⅱ(精神障害Ⅰ)	村谷 澄哉	1	30	必修	講義	3	精神科病院において、病棟作業療法の実施を行う。依存症を中心にその他の疾患の患者様の治療を担当。その経験をいかし、精神科の基礎知識についての講義授業を担当する。
作業治療学Ⅳ(老年期障害Ⅰ)	石田 敦子	1	30	必修	講義	3	高齢者施設での訪問看護ステーションでリハビリチームをまとめ、作業療法士としては本人、家族、他職種と共に活動・参加に焦点を当てたアプローチを実施してきました。最近では愛知県作業療法士会の認知症希望大使とともに委員会で、若年性認知症の方の講演会の支援なども行っています。また、デイサービスの経営・臨床を行っています。加齢によって失われる機能だけに注目するのではなく、経験を重ねた年長者に対して尊敬の気持ちで接することができるようコミュニケーションのコツや生活スタイルの着目点などを伝えていきたいと思っています。
義肢装具学Ⅰ	廣島 淳	1	30	必修	講義	3	医療機関等で義肢装具士として、活躍中である非常勤講師が、体験談などを交え、義肢装具の概要を講義し、国家試験に必要な知識を学ぶ科目である。
義肢装具学Ⅱ	吉井 宏晴	1	30	必修	演習	3	整形外科領域でも手の外科やリウマチ科での臨床経験が長いのでそれを生かした治療用義具の実験を踏まえ、基本的な製作演習により、適合に必要な要点を伝える。作業療法士として臨床の場に立つ際に役立つ考え方や技術を学んでいただき、スプリント製作を自身の選択肢にしていだくことができるよう、楽しい体験型の実技により成功体験を得られる授業を行う。
生活環境論	石田 敦子	1	30	必修	講義	3	訪問看護ステーションに7年従事し、本人・家族の住みやすい環境を考案してきました。対象者の疾患、症状、性格に合わせた生活環境について、ケアマネジャーや医療職、介護職などによる専門職チームで議論し、障害と生活の知識を組み合わせた作業療法士ならではの視点で助言や意見を行いました。経験した症例なども出しながら授業を進めていきます。
合計				14 単位		330 単位時間	